

# 職務経歴書

2023年9月26日 現在

氏名: 泉 尋公

## ■職務要約

2018年10月、株式会社イルグルムに新卒で入社し、広告効果測定プラットフォームのデータベース基盤改善プロジェクト、および Web ページ計測システムの保守プロジェクトに参画しました。担当業務はテストの実施・マネジメント、開発・設計です。

2020年11月に Sler であるユニティ株式会社に転職し、PHP フレームワークを利用した Web システムの受託開発において詳細設計～試験、新人エンジニアの育成・社内開発環境・開発チームおよびインフラチームの連携を担当しました。

2023年6月、株式会社トラストバンクに入社し、自治体向けのノーコード業務改善ツールの開発に従事しています。スクラム開発を通して機能開発・技術負債の解消をリードしています。

## ■活かせる経験・知識・技術

### 1. 作業効率改善に向けた主体的な提案・行動

コア業務に集中するために、雑事はできるだけ自動化するように心がけています。また、担当プロジェクトが予定より早く終わった際に、開発環境のコンテナ化やテストツールの改善(環境のドックライズ・バグ修正・リファクタ)を進め、後のプロジェクトで開発環境構築において質問を受けることが少なくなり、テスト工数は70%ほど短縮されました。改善の余地があればためらわずに意見を発信し、結果的に業務改善につながった経験が多く、こうした点を評価いただいています。

### 2. 新人エンジニアの教育

プログラミングスクールの受講が終わったばかりの新人教育を担当しました。その際、わからないことに遭遇したら、必ず言語化するところまでサポートしました。例えば実装中にエラーに遭遇した時に、「エラーには何と書いてあるか?」、「自分がやりたかったことは何なのか?」を言語化し、課題を認識できるように指導しました。最終的に自分の言葉で説明できるようになってくれました。また、リモートワーク下でのコミュニケーションの方法にも心を配り、LiveShare と Slack のハドルミーティング機能を併用して、会話しながら開発中のコードを共同編集できる環境を構築しました。これによりコード内の特定の行を指摘するなど、細かな助言や指導が可能となり、開発効率を高めることに成功しました。

### 3. 自動テストの導入

現職では、これまでシステム全体のテストのみ用意していたため、細かな修正であったとしても全体テストを実施する必要があり、開発効率の低下を招いていました。そのような中、直近で携わった医療業務システムの新規開発では、関数・ビジネスロジックレベルの処理のテストを記述し、自動化しました。また、コードの修正および反映時にクラウド環境上でそのテストが自動で実行される仕組みも用意し、

修正範囲外の既存機能への影響を今まで以上に検知しやすくなりました。

## ■職務経歴

□2023 年 6 月～

株式会社トラストバンク

◆事業内容:自治体向けノーコード業務改善ツール

◆資本金:122,243,816 円 売上高:- 従業員数:248 名

期間	プロジェクト名および業務内容	担当フェーズ	環境／規模	メンバー／役割
2023 年 6 月～	<b>【プロジェクト概要】</b> 自治体向けノーコード業務改善ツール「LoGo フォーム」を通してスクラム開発に従事  <b>【業務概要】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・機能開発</li><li>・バグ修正</li><li>・ユニットテストの追加</li><li>・コーディング規約の策定</li><li>・CI によるユニットテストやコーディング規約のチェック機構の導入</li><li>・E2E テストの自動化スクリプト追加</li></ul> <b>【実績】</b> 多くの言語に触れてきた経験を活かして Python に適したコードの書き方を体得しつつ、設計の見直しを念頭に置いて開発をリード。	実装・試験	<b>【OS】</b> Windows Linux <b>【エディタ】</b> IntelliJ Visual Studio Code <b>【言語】</b> Python (Flask) Vue.js JavaScript <b>【DB】</b> MariaDB <b>【その他】</b> GitHub Actions Docker Snyk Playwright Pytest Jest	<b>【役割】</b> 開発者 <b>【プロジェクト規模】</b> 要員:11 名 (PJ 全体で約 50 名)

□2020 年 11 月～2023 年 5 月

ユニティ株式会社

◆事業内容:Web サイト制作・運用

◆資本金:4,000 万円 売上高:- 従業員数:15 名

期間	プロジェクト名および業務内容	担当フェーズ	環境／規模	メンバー／役割
2020 年 11 月～ 2023 年 5 月	<b>【プロジェクト概要】</b> 開発チームに在籍し、様々な Web サイトの受託開発において、Web アプリケーションの詳細設計・開発・試験を担当。  <b>【受託開発の案件概要】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ブランド品卸業者の在庫管理システム</li><li>・某サッカーチームポータルサイトの記事 URL 修正・リダイレクト処理</li><li>・某スポーツテレビ局のサイト改修</li><li>・医療業務システムの開発自動テストおよび CI の導入</li><li>・その他企業サイト改修を何社か (WordPress, Movable Type 絡み)</li><li>・Docker を利用した、各案件のローカル開発環境作成</li><li>・AWS Lambda と SES を使用した、お問い合わせフォームのバックエンド処理</li></ul> <b>【社内開発】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・インフラチームで使用している案件管理システムの改修</li><li>・ラジオ局のオンエア曲を Slack に投稿する bot</li><li>・日報作成 Web アプリ</li></ul> 規模の大きいプロジェクトは別途下記に	実装・試験	<b>【OS】</b> Windows Linux <b>【エディタ】</b> JetBrains 社各種 Visual Studio Code Vim <b>【言語】</b> PHP (CodeIgniter) HTML JavaScript Bootstrap <b>【DB】</b> MySQL <b>【その他】</b> Git GitHub AWS CodeCommit Docker WordPress MovableType Apache	<b>【役割】</b> メンバー <b>【プロジェクト規模】</b> 要員:3 名 (PJ 全体 4 名)

	記載しています。			
通年	<p>【プロジェクト概要】</p> <p>インフラチームで使用している案件管理システムの改修(社内開発)</p> <p>案件管理システムでは、インフラチームの各個人のタスクや、証明書・サーバの備品の管理ができる。</p> <p>これを 1 プロジェクトととらえるのであれば、プロジェクトリーダーのような役割を担当。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もともと外部委託していたものを引き継いだ影響か、デプロイの仕組みが外部のシステムに依存していて使えない状況にあった。Git のコミットから差分を抽出し、サーバ上で差分を適用・切り戻しする方法を編み出すことで回避。</li> <li>・機能要望の一つに全文検索機能があり、実装方法について「部分一致を利用するシンプルなもの」「形態素解析の結果をデータベースに保存して利用する方法」「OpenSearch を利用する方法」について実装工数・メリット・デメリット・必要な作業等の比較表を作成してマネージャーに共有。OpenSearch についてはローカル・AWS の両方で技術検証を行った。(規模感が不明瞭なため保留となっている。)</li> </ul>		FuelPHP React.js OpenSearch	要員:3 名
通年	<p>【プロジェクト概要】</p> <p>Docker を利用した、各案件のローカル開発環境作成</p> <p>これを 1 プロジェクトととらえるのであれば、プロジェクトリーダーのような役割を担当。</p> <p>【実績】</p> <p>当初、Docker の技術スタックを持っている人が社内では私しかおらず、環境作成を率先して進めた。</p> <p>特に、「新入社員がまっさらの PC に Docker をインストールしたところから手順を実施して難なく構築できるか」というところを意識した。</p> <p>PHP に追加する拡張モジュールによっては別途パッケージが必要になるため、モジュールを指定して Dockerfile を動的に生成するスクリプトを作成した。</p> <p>環境の軽量化という観点から、案件によっては Apache と PHP や Perl を別コンテナで動作させる環境も作成した(Perl は MovableType で使用)。</p>		Node.js Typescript EJS	要員:2 名
2022 年ごろ	<p>【プロジェクト概要】</p> <p>AWS Elastic Beanstalk についての検証・調査</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、インフラチームでの調査予定だったが、リソースが確保できないとの悩みを聞いていたため、こちらで自主的に巻き取って調査した。</li> <li>・従来の EC2 を利用した運用からスムーズな乗り換えができるとの期待があり、</li> </ul>		AWS Elastic Beanstalk	

	<p>「とにかくモダンな方法を」ではなく、「現状の運用とあまり変わらないようにサービスを導入するならこの方法を」という視点が役に立った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入するためにインフラチームに必要なスキル (Git/AWS CloudFormation) の洗い出しを行った。</li> </ul>			
2022 年 6 月 ～ 2023 年 1 月	<p>【プロジェクト概要】</p> <p>悪性リンパ腫の検査システム開発 (バックエンドのみで、フロントエンドは他社)</p> <p>バックエンドとしては、別サーバから検査依頼を参照し、検査結果を出力する流れの中で、診断結果や検査内容を管理する電子カルテのような仕組みもある。</p> <p>【担当業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細設計と実装</li> <li>・試験</li> <li>・ユニットテストおよび CI の初導入</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このプロジェクトのみフレームワークのバージョンが最新となり、社内向けに使いやすくするためのカスタマイズも併せて行った。</li> <li>・比較的大規模な開発となったが、コード量で全体の 8 割、ユニットテストはすべてのコードを 1 人で書いた。また、GitHub Actions によりユニットテストが自動で行われる仕組みもすべて構築した。</li> <li>・この頃にリポジトリ管理が GitHub から AWS CodeCommit へ移行し、GitHub Actions で用意していた自動テストの仕組みも CodeBuild 等ですべて書き直した。</li> <li>・コードのフォーマッタについては試験が落ち着いたところに気付いたため、プロダクトコードに適用することができなかった(適用すると全試験をやり直す必要があるため)。</li> <li>・開発した API は他社の方が利用するため、Swagger UI を利用して API ドキュメントの作成をすべて行った。</li> </ul>		<p>PostgreSQL</p> <p>PHP CS Fixer</p> <p>PHPStan</p> <p>PHPUnit</p> <p>GitHub Actions</p> <p>AWS CodeBuild</p> <p>Swagger UI</p>	
2021 年頃～ 1 年ほど	<p>【プロジェクト概要】</p> <p>ブランド品卸業者の在庫管理システム</p> <p>【担当業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実装</li> <li>・リモートワークにおけるペアプログラミング環境の構築</li> <li>・社内で初めての自動デプロイについての検証(指示を受けて)</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マネージャーの判断により要件定義書も画面デザインもないまま開発がスタートし、開発に手間取った。その中で、不明な要件については Slack での確認を念入りに行うことで開発を進めた。</li> <li>・新人を抱えてのプロジェクトだったため、新人教育に積極的に時間を使っ</li> </ul>		<p>GitHub Actions</p> <p>SCSS</p>	

	<p>た。スクール上がり・答えありきの意識を壊して、自分で考え言語化させる意識を持ってもらうのに苦労した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムのデザインで、テーマカラーの指定があったため、Bootstrap CSS をソースからビルドする方法について調査し、その手順をドキュメント化した。社内では誰もやったことがなかった。</li> <li>・リリース直前まで頻繁に発生した仕様変更にも対応し、そのたびに再試験範囲の調査と試験を行うことで対応できた。</li> <li>・当時、E2E のテストしか工数を用意されない制約の中、「上から順番にこなせば試験観点が網羅できるテスト」を意識して作成し、テスト工数の削減につなげた。</li> <li>・社内で初めての自動デプロイについての検証では、オンプレ環境であることを踏まえ、GitHub への反映をトリガーに self-hosted runner を使用してデプロイする仕組みを構築した。最終的に前例がないという政治的な理由で却下となったが、自身の経験にはなったため良かった。</li> </ul>			
--	--	--	--	--

□2018 年 10 月～2020 年 09 月 株式会社イルグルム

◆事業内容:インターネット・広告・メディア Web マーケティング

◆資本金:31,806 万円 売上高:2,204 百万円 従業員数:149 名

期間	プロジェクト名および業務内容	担当フェーズ	環境／規模	メンバー／役割
2020 年 07 月 ～ 2020 年 09 月	<p>【プロジェクト概要】</p> <p>広告計測サービス管理画面における集計のリアルタイム集計から事前集計への移行。</p> <p>サービス管理画面において、集計結果の表示が遅いというご意見に対応するもので、一定時間ごとにあらかじめデータを集計することにより画面レスポンスの改善を図ります。</p> <p>【担当業務と実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計の一部と実装</li> </ul> <p>リアルタイムで実行されていた SQL を解読することで、自社製品の深い理解につながりました。</p> <p>また、Go 言語の実務経験を積むことができ、習得に大きく役立ちました。</p>	実装・単体テスト	<p>【OS】</p> <p>Windows Linux</p> <p>【言語】</p> <p>Go</p> <p>【DB】</p> <p>Aurora PostgreSQL</p>	<p>【役割】</p> <p>メンバー</p> <p>【プロジェクト規模】</p> <p>要員:10 名(PJ 全体 25 名)</p>
2020 年 05 月 ～ 2020 年 06 月	<p>【プロジェクト概要】</p> <p>広告計測サーバの生データ提供。</p> <p>広告計測サーバに蓄積されたデータをそのままの形に近い状態で提供し、お客様側でより自由度の高い分析を可能にします。</p> <p>【担当業務と実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計と実装</li> </ul> <p>Python による実装・単体テストの過程で、ソースコードのコーディング規約・セキュリティレビュー機構を確立しました。</p>	開発・単体テスト	<p>【OS】</p> <p>Windows Linux</p> <p>【言語】</p> <p>Python</p> <p>【DB】</p> <p>PostgreSQL MySQL</p>	<p>【役割】</p> <p>メンバー</p> <p>【プロジェクト規模】</p> <p>要員:3 名(PJ 全体 15 名)</p>

2020 年 04 月 ～ 2020 年 04 月	<p>【プロジェクト概要】 手動運用の自動化。 タグ計測の ITP 対策で、SSL 証明書発行に DNS 認証を利用できないお客様向けに、メール認証を管理画面でご案内します。</p> <p>【担当業務と実績】 ・画面設計 画面のレイアウトおよびデザイン設計までを一人で行いました。 Adobe 製品を使いこなせるようになり、画面設計に対する敷居が下がりました。</p> <p>・実装およびテスト 既存の機能を MVC モデルに載せ替えることでメンテナンス性の向上につながりました。</p>	開発・単体テスト ・結合テスト	<p>【OS】 Windows Linux 【言語】 JavaScript PHP HTML CSS 【フレームワーク】 jQuery 【DB】 PostgreSQL MySQL 【その他】 Docker AWS Adobe XD</p>	<p>【役割】 メンバー 【プロジェクト規模】 要員:3 名(PJ 全体 4 名)</p>
2019 年 04 月 ～ 2020 年 03 月	<p>【プロジェクト概要】 広告計測システムの機能改善・追加。 日々のブラウザ仕様変更やプライバシーに関する世界の動向に即して、広告計測タグの機能追加および修正を行います。</p> <p>【担当業務と実績】 ・実装およびテスト 多少の機能追加や修正のため、実装では数行程度の修正または既存ソースコードのフレームワークへの移管などを行いました。 修正の度に単体テストの改善も併せて行い、計測タグのカバレッジが C0 基準で 83%から 96%に上がりました。</p> <p>・大規模リグレッションテスト(結合テスト)におけるテストケース・テストフレームワーク保守、テストのスケジュール策定 テストツールの改善によりテスト要員を容易に増やすことができ、テスト期間の大幅な短縮に成功しました(通常パターン: 10 営業日→3 営業日)。</p> <p>・プロジェクトのバッファを利用して、実装やテストで使用していたリポジトリの開発環境を一部 Docker に移行 誰でも同じ環境が構築できるようになり、開発効率が向上しました。</p>	開発・単体テスト ・結合テスト	<p>【OS】 Windows Linux 【言語】 JavaScript PHP 【フレームワーク】 Selenium CakePHP 【DB】 PostgreSQL MySQL 【その他】 Docker AWS</p>	<p>【役割】 メンバー 【プロジェクト規模】 要員:3 名(PJ 全体 15 名)</p>
2018 年 12 月 ～ 2019 年 03 月	<p>【プロジェクト概要】 製品内で使用しているデータベースの基盤改善。 サービス管理画面において、集計結果の表示が遅いというご意見に対応するもので、データベースの基盤変更やクエリチューニングなどを行い、集計処理速度の改善を図ります。</p> <p>【担当業務と実績】 ・調査業務 1 Vertica Eon Mode を用いたデータベ</p>	調査	<p>【OS】 Windows Linux 【言語】 Python PHP 【DB】 Vertica MongoDB</p>	<p>【役割】 メンバー 【プロジェクト規模】 要員:8 名(PJ 全体 8 名)</p>

	<p>スにおいて、クラスタ構成を変化させながらクエリの実行時間の統計を取り、既存のパフォーマンスや経費と比較しました。</p> <p>・調査業務 2 MongoDB を用いて、製品の管理画面それぞれについて、利用回数や時間帯などを分析し、「使われていると思っていたが実際にはそれほど使われていない」機能の洗い出しをしました。 これにより、後の機能改修で管理画面がシンプルになり、サーバへの負担の最適化や経費の削減につながりました。 また、この当時 MongoDB のクエリについて理解しているただ一人の社員となったため、いろいろな部署から調査依頼をいただくことができ、微力ながら障害発生時の調査にも貢献しました。</p>			
2018 年 10 月 ～ 2018 年 11 月	<p>【プロジェクト概要】 新人研修</p> <p>【業務内容と実績】 ・プログラミング外部研修 外部で PHP のプログラミング研修および、エンジニアの基礎知識（基本情報レベル）を習得しました。 中でもデータベースへの興味が深く、その旨を伝えて後にデータベース関連のプロジェクトに参画させていただきました。</p> <p>・製品研修 自社製品「アドエビス」についての概要を学びました。わからないところもありましたが、普通の人々が聞き流すところにも疑問を持ち、深く突き詰めようとする姿勢が講義実施者には印象的だったようです。</p>	設計、開発など	<p>【OS】 Windows Linux 【言語】 JavaScript PHP HTML5 CSS3 【フレームワーク】 Laravel 【DB】 MySQL 【その他】 Git</p>	<p>【役割】 メンバー 【プロジェクト規模】 要員:2 名(PJ 全体 2 名)</p>

## ■今後のキャリアパスについて

会社で提供するサービスがより良いものになっていくよう、あらゆる方面から(その時点での)最善の方法を検討できるようなエンジニアでありたいと思います。

詳しくは以下の記事をご覧ください。

<https://portfolio.fairy-select.com/posts/career/>

## ■キャリア達成のために伸ばすスキル

- 技術検証段階で小さな構成のアプリケーションを容易に作成できる実装力
  - 日ごろから既存サービスの新しい機能や新しいサービスについて情報をキャッチアップする
  - 気になったサービスは、チュートリアルをやることでイメージをつかむ
- ベテランの方々の体面を重んじながら自由に新しい文化を取り入れるためのコミュニケーションスキル
  - 新しい文化を取り入れる目的を明確にする

- ベテランの方々が持つ「ベストプラクティス」はなぜベストになったのかを分析し、新しい文化も同じ要素を持っているということを説明する

#### ■今後、エンジニア人生の中でやりたいこと(本業・プライベートを問わない)

- コードレビューの体制を構築する
- テストからリリースまでを高頻度で行えるような仕組みを構築する
- コンテナ技術やクラウド環境の導入など、エンジニアが気持ちよく開発できるような開発環境を整備する
- 新入社員の開発環境構築にかかる時間を極限まで切り詰める取り組み
- 社員が自分の人間性と仕事の実績を分離して考えられるよう、面談で社員にかかる言葉の表現選びに気をつける
- 会社の方針決定にデータという根拠を活用する

以上